

### 3 家康を大敗させた三方ヶ原の戦い

武田  
信玄

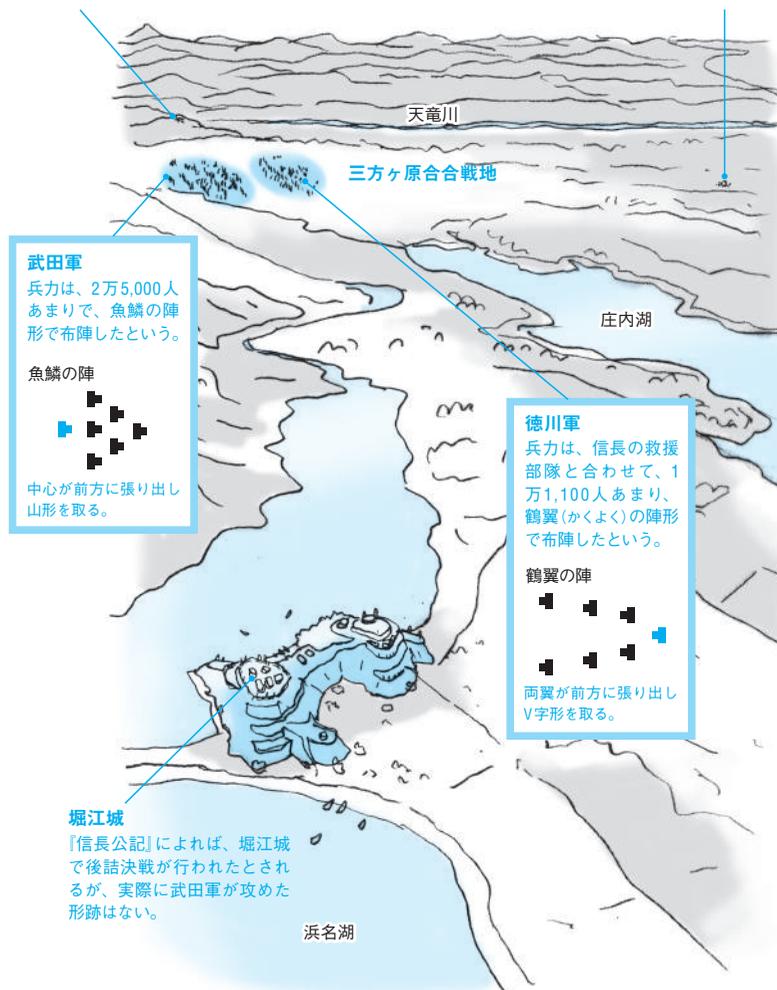
1572（元龜3）年、信玄は徳川家康の領国（116頁）である遠江に侵攻し、二俣城を落とした。信玄は勢いそのままに家康の居城・浜松城へ向かったが、城を攻撃することなく三方ヶ原台地を通って三河へと西進。信長との同盟関係にあった家康は信玄の進軍を見逃すわけにもいかず、城を出て攻撃に出た。かくして三方ヶ原での合戦となったが、徳川軍1万1,100人あまりに対して武田軍は2万5,000人あまりと兵力の差は圧倒的で、信玄の圧勝となった<sup>\*2</sup>。

#### 二俣城

武田軍はこの城を包囲し、家康を挑発して救援に来た軍を迎え討つ後詰決戦に誘い出そうとした。

#### 浜松城

家康の居城。二俣城を落とした信玄は、浜松城へ向かったが、城を包囲することなく三方ヶ原に侵攻した。



<sup>\*2</sup>：三方ヶ原の戦いに負けた家康は大変悔しがり、臥薪嘗胆(がしんしょうたん)の思いを込めて「しかみ像」という肖像画を描かしている(徳川美術館所蔵)。また、正月の飾り用の竹を武田に見たて、次こそは切り捨てるといって斜めに削ぎ落とした。現在の門松の形はこれに由来すると伝わる。